

十字架上の七つのことば

2024年3月24日

マタイ 27・46 マルコ 15・34
ルカ 23・32～49
ヨハネ 19・26～30

序：受難週 (the Passion, PASSION WEEK)

日	エルサレムへの勝利の入城	
月	宮の中の商人、両替人を追放	
	指導者たちの陰謀・企み	ベタニヤ → エルサレム
火	指導者たちがイエスに敵対・殺意	←
	イエスはオリーブ山で教える	
	ベタニヤのマリアがイエスに香油を注ぐ	
水	ベタニヤで過ごす	
木	過越の祭りの準備、過越の食事、ゲッセマネへ	
金	逮捕、尋問（アンナス、カヤパ）、ペテロの否認、	
	議会、ヘロデ ↔ ピラト、ユダの自殺	
	9時：十字架刑 正午：全地が暗闇に 午後3時：イエスの死	
	午後6時までに埋葬（アリマタヤのヨセフ、ニコデモ）	

金曜日の朝9時～午後3時まで、イエスが十字架上で発せられた7つのことば

I. 父よ、彼らをお赦しください。彼らは自分が何をしているのか分かっていないのです
ルカ 23・34

ローマ兵がイエスと二人の犯罪人を十字架につけた（衣服はくじ引き）
両手、両足を釘で打ち付け、十字架を起して立てた（体重がかかり、苦痛）
彼ら：ローマ兵、ユダヤ人の指導者、民衆、巡礼で上ってきた人々
無罪の救い主を極刑によって殺している
「汝の敵のために祈れ」をみずから実践 とりなしの祈り（敵の赦しを乞う）

II. イエス⇒母に「女の方、ご覧なさい。あなたの息子です」 ヨハネ 19・26～27
イエス⇒愛する弟子（ヨハネ）に「ご覧なさい。あなたの母です」

二人は十字架のそばにいた イエスに最も近い母と愛弟子
イエスはマリアの長子、母に先だって死ぬ不孝、母の行く末を案じ、ヨハネに託す
ヨハネはすぐに主の母マリアを引き取った 終生世話をした

III. 悔い改めた犯罪人「イエス様。あなたが御国に入られるときには、私を思い出してください」 イエス「まことに、あなたに言います。あなたは今日、わたしとともにパラダイスにいます」 ルカ 23・42～43

ふたりの犯罪人のうち、悔い改めた方にだけ与えた約束
イエスが審判者として来られるときには私を思い出して：十字架に隣あわせで付けられたその時にあなたを信じたことを（御国に入れてくれるように頼まない）
イエスの確約：ふたりとも今日中に死ぬが、今日のうちにパラダイスに行く
それほど長く待つ必要はない
しかも、わたしとともに 信仰をもって召された者が
復活を待つ場所（安息・祝福）

IV. エリ、エリ、レマ、サバクタニ（わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てに
なったのですか マタイ 27・46、マルコ 15・33、詩 22・1
わが父ではなく、わが神
父と子は一体 神はさばき主
完全に見捨てられた状態 ∴ 罪人の罪のすべてを引き受けた、罪の塊と見做されて

V. わたしは渴く 詩篇 22・15、69・21 ヨハネ 19・28
十字架刑では、恐ろしいひどい渇き・脱水症状、出血多量、意識朦朧
だれも同情する者はいない 蔑まれ、孤独
すべてのことが完了 聖書が成就

VI. 完了した ヨハネ 19・30
酸い葡萄酒を受け取った 前には受け取らなかった マタイ 27・34
なめただけで飲もうとしなかった
苦杯を味わい尽くす、痛みの緩和、麻痺を厭う
激しい苦しみの後、受け取った

VII. 父よ、わたしの霊をあなたの御手にゆだねます。 ルカ 23・46
神 ⇒ 父に戻る 親しい父子関係が戻った 罪の罰を受けて、和解
わたしの霊を支配するのは父 ゆえに父に委ねる、御手の守りを確信
多くの聖徒たちの臨終のことば ステパノ 使徒 7・59

VII. 結び

- (1) イエスの十字架刑に必要な重要人物3人が同じ時にエルサレムに上った
イエス・キリストはベタニヤから、ヘロデ・アンティパスはベレヤから、
ピラトはヤツファから（ユダヤ人も異邦人も係わるようになった）
- (2) 時は過越の祭りの期間、エルサレムは普段の3～4倍の人口（巡礼者たち）
後に、イエスのできごと（死と復活）がローマ帝国の津々浦々まで伝わる
- (3) イエスが全き神でありつつ、肉体をもった真の人間とならなければならなかった
たのは、贖いの死をとげられるため
神は目に見えない、永遠不変不死のお方なので、神性のみだと死ぬことができない。
罪を別にすれば、すべてあとは私たちと変わらない人性をもっておられた
（喜怒哀楽、空腹、渇き、疲労など）
- (4) イエスが味わわれた肉体に受けた激痛、苦難もさることながら、もっと大きな
苦悩は孤独（ユダヤ人と異邦人からの敵対・殺意、弟子たちの離反・裏ぎり、
さらに最たるものは、神から完全に罪が処罰される間見捨てられたこと
一度も父と御子は断絶したことがなかった、いつも一体だった
- (5) ただ滅び＝永遠の死しかなかった私たちが、到底救いをいただく何の功もない
者であったにもかかわらず、主イエスの贖いによって、罪の赦し、永遠のいのち
をいただいたのは神の恵みによる 信仰さえも恵み
- (6) 今、救いの完成に向かう途上にある私たちは、地上の日々をこの福音を証しし、
救い主を伝え、光の子どものらしい歩みによって、主の栄光を現していく